

都市水路の基礎的研究

その4 中央区における水路減少に関する考察

正会員 尾島俊雄 同 高橋信之 同 所畑一尚 (同) 岩佐幹生 同 楢貝直哉

はじめに

前報において東京23区の中でも特に水路減少の著しい地域であると推定される江東区に関して水際線減少の実態を調査した。本報では23区中特に3次産業化の進んだと思われる中央区について水際線減少を調査したものである。

調査対象の範囲と年代

調査対象の範囲は上述のごとく東京都下中央区とするが、調査年代の関係上、中央区の区域は昭和58年12月現在の行政中央区を対象とした。又、時経は、1983年、1909年、1937年、1956年、1982年とし、参照地図は国土地理院保存原版的複写版をベースにし、数種の地形図、及び市街図等を参考とした。

調査の結果及び考察

図1～5は中央区の水網水域の変遷を年代を辿って示したものである。現在の中央区は、武蔵野台地を流れていた石神井川と平川にはさまれる沖積地である江戸前島をその地理的前身とする。ここに太田道灌以来人為的理立て、開堀が進み約200年間で他の沿岸に位置する区とともに現在に近い姿を整える。江戸時代には、主要な運河網もほぼ完成し、運河は人々の交通網流通経路として、また、河岸は市場として利用された。運河網は昭和初期に至るまでその形をほとんど変えていない。

しかるに、中央区が著しい変化を見せるのは明治時代以降である。首都東京市の中心として銀座煉瓦街計画(明治10年)を発端として著しい近代都市化の舞台となる。運河は鉄道、道路交通の発達とともにその主要な地位を失ってゆき、明治6年、日本橋が架けかえられる。江戸時代の橋は運河を通る船の荷の障害とならぬように中央をアーチ状に迫り上げて作っていたが、馬車や人力車が走るようになるとそれ等が逆に邪魔になり、政府は水運より陸運を優先し橋を平らに直したのである。これに伴い都市運河新設の目的が変る。

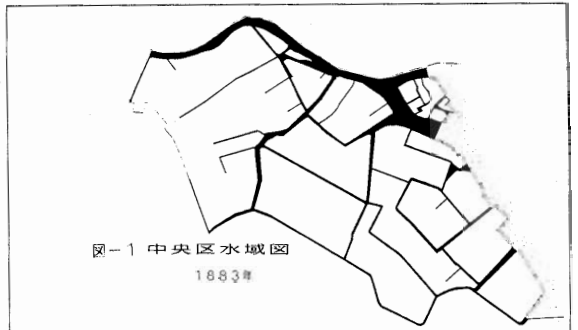


図-1 中央区水域図  
1883年

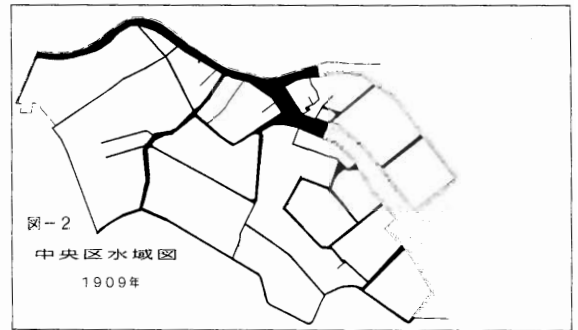


図-2  
中央区水域図  
1909年

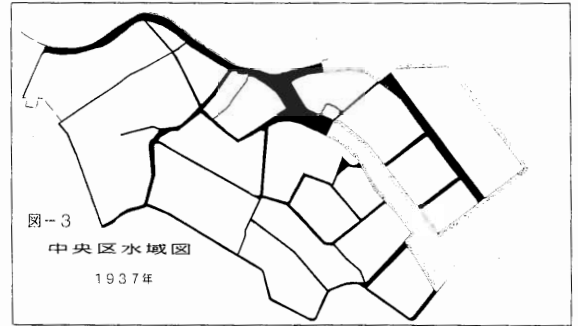


図-3  
中央区水域図  
1937年

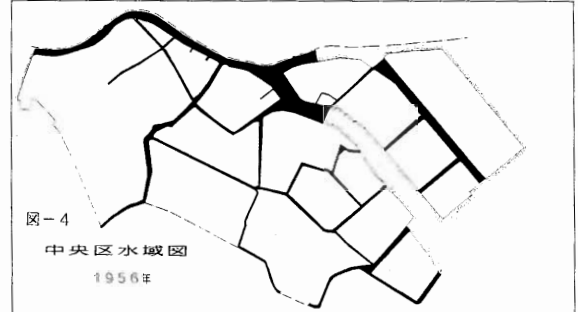


図-4  
中央区水域図  
1956年

明治14年、東京防火令に路線防火事業の一環として防  
 災をかねた交通網改良計画として3本の運河が計画さ  
 れ明治17年頃に完了している。他の変化としては、内  
 濠につながる2つの堀、道三堀と現在の日比谷濠から  
 外濠へU形に開かれていた堀の閉鎖、埋立てがある。

大正時代には、水系の大きな変化は余り見られない  
 が、河川水場交通の割合は、全体の5%程度を占める  
 にすぎず、更に減少の一途をたどっていった。河川交  
 通は大震災後、その復旧の速さにおいて見直されたが

、復興計画は陸路中心であったため細細河川はその用途目的  
 を転化され、下水道化してゆく端緒を示すのがこの時代であ  
 る。

昭和10年には、魚河岸を現在の築地に譲渡され、生鮮食品  
 流通も陸路に移る。戦後においては、水路、堀はほとんど下  
 水道下しており、高度成長と復興の流れにおいて次々と埋め  
 られてゆく。この当時の水路延長は1883年に対して2.6%増  
 加を示しているが、これは荒川の東側、佃島から初まった埋  
 立て(月島、勝どき、晴海)によるものであり、東側だけに  
 おいて運河は、4.316km延長して。しかし、本来の陸地  
 であった西岸だけを見ると3,277kmの減少となっている。

また、昭和26年に外濠上の高速道路建設、昭和29年の外濠  
 の公有水面埋立案の議決は、元禄時代からの堀や川の形を大  
 きく変えていった。表-1において河川の水際延長は変化が  
 ほとんどないように思われるが、上部を高速道路等が通下し  
 ている本来のオープンスペースとしての性格をもたないその  
 を除くと、1,788kmの減少となり、1883年に較べて、19.9%  
 の減少となっている。

中央区の水場、河川の減少状況を 図-6、表-1に示す。  
 1883年から1982年までの水際延長総減少率は、40.5%であ  
 る。

今後の展望

中央区という東京の中心的役割を果たしてきた区域は、明治以来  
 の日本の都市の近代化という面でも先駆けてきた。近代化の代わり  
 に何を失ってきたかという一連の本研究の主旨により、東京圏の中  
 で失われた水場の実態がほぼ明らかになってきた。更にこのシリ  
 ーズでは、失われた水場が現在、何に使われているのか 調査に入る  
 ことか、所要なことと思われる。

○

1) 明治の東京計画 藤森 照信

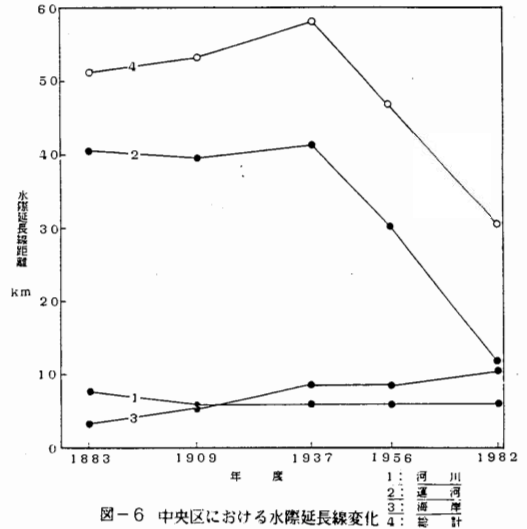
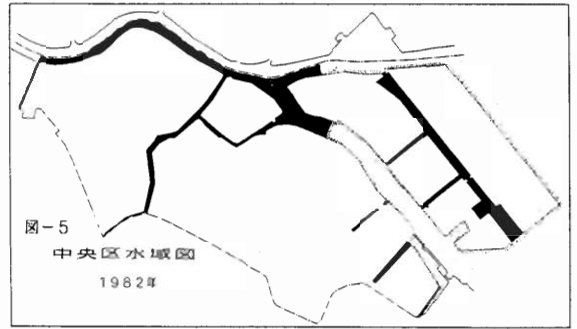


表-1 中央区における水際延長線変化

年 度	河 川	運 河	濠 岸	総 計
明治16年 1883	7.940	4.042	3.335	51.440
明治42年 1909	7.940	3.983	5.742	53.514
昭和12年 1937	7.940	4.146	8.663	58.064
昭和31年 1956	7.940	3.029	8.762	46.991
昭和57年 1982	7.940	11.940	10.724	30.604

謝 辞

本研究では、平林昭二さん(株リクル  
 ート)に大変御世話になりました。どう  
 もありがとうございました。